

## 第3章 地域別構想



# 1 地域別構想について

## (1)地域別構想の構成

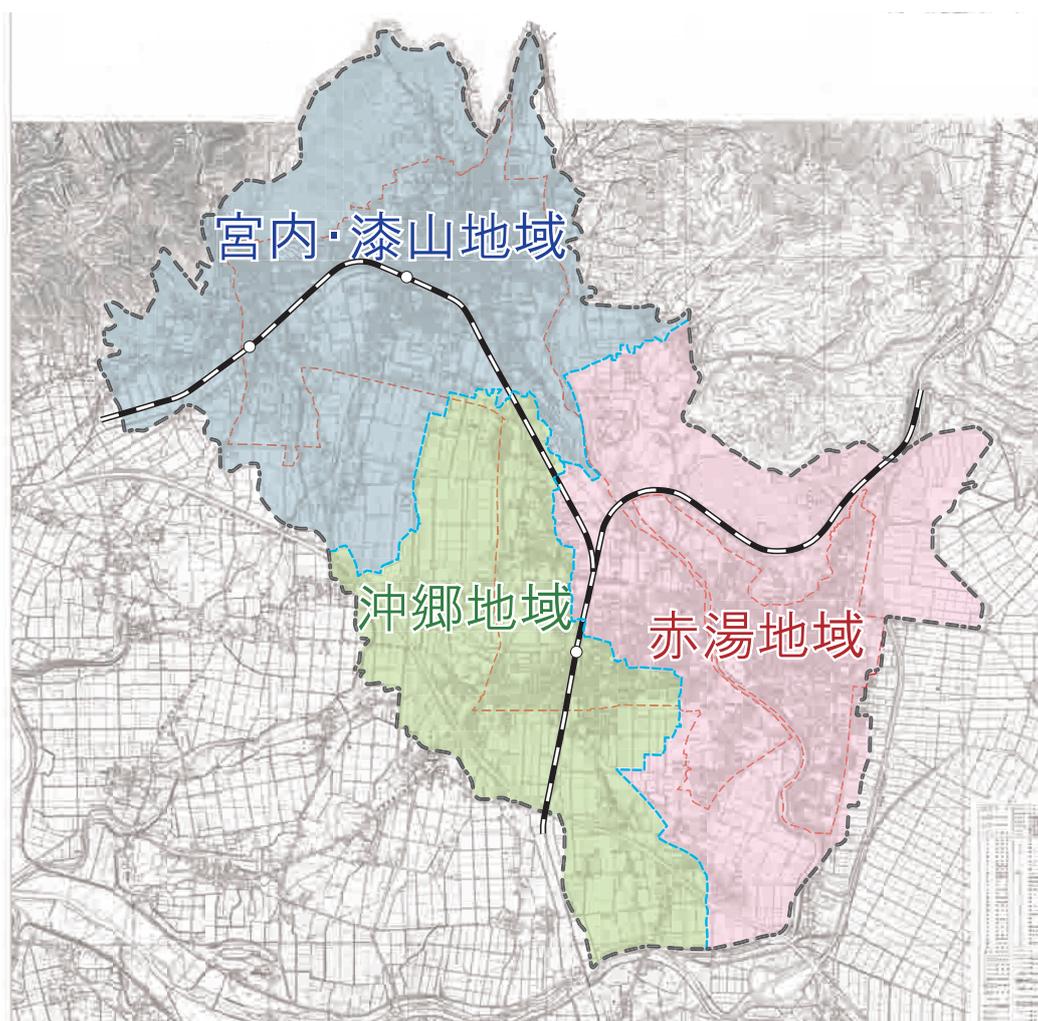
地域別構想は、全体構想を踏まえ、地域の現状や市民アンケート等の住民意見から整理される魅力や課題を基に地域の将来像とその実現に向けたまちづくりの方向、方針を示すものであり、「現状」、「特性と課題」、「将来像」、「まちづくりの方向」、「まちづくりの方針」の大きく5つの項目から構成されています。

なお、地域別構想の対象とする範囲は、都市計画区域内を基本として記載しています。

## (2)地域区分

地域別構想の地域区分は、都市計画区域内について、市街地のまとまりやコミュニティの単位を勘案し、「赤湯地域」、「宮内・漆山地域」、「沖郷地域」の3区分としています。

〈地域区分図〉



## 2 赤湯地域

### (1)地域の現状

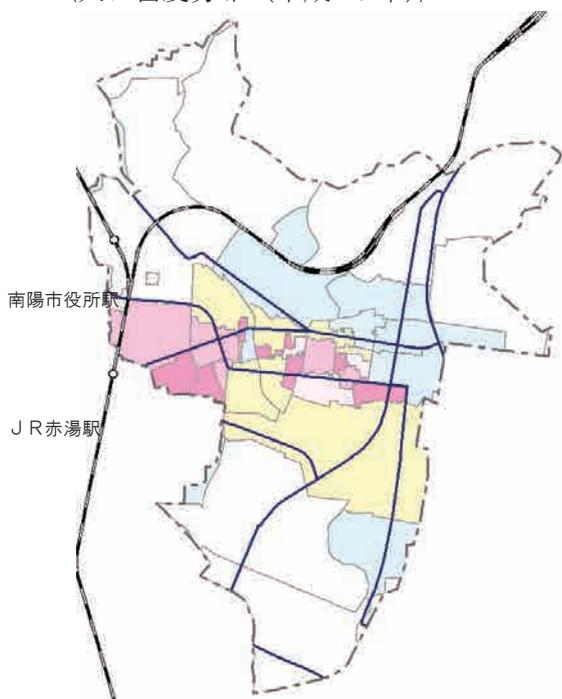
#### ①人口動向

平成 27 年現在における本地域の人口は 10,586 人、世帯数は 3,680 世帯となっています。

15 歳未満の年少人口比率は 12.8%、65 歳以上の老年人口比率は 29.7%であり、他地域と比較すると年少人口比率は高く、老年人口比率が低い状況にあります。

平成 27 年現在の人口密度分布をみると、(都) 赤湯停車場線沿道の市街地中心部においては人口密度が高く、地域の北部及び南部等は低くなっています。

〈人口密度分布 (平成 27 年)〉



〈人口・世帯等 (平成 27 年)〉

人口	10,586 人
世帯数	3,680 世帯
平均世帯人員	2.9 人/世帯
年少人口比率	12.8%
老年人口比率	29.7%

出典：国勢調査

#### 凡例

##### 平成 27 年人口密度



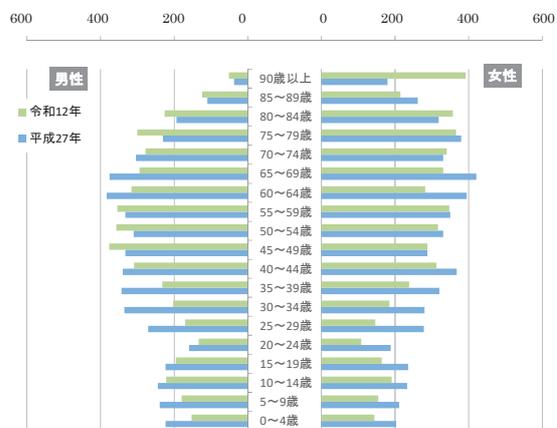
(将来人口見通し)

平成 27 年 (現況) 及び令和 12 年 (推計)

の男女別 5 歳階級別人口ピラミッドをみると、高齢者が多く、子どもが少ないつぼ型の人口構造となっており、今後も少子高齢化が進行すると予測されます。

年齢 3 区分別の人口見通しは、男女ともに年少人口 (0~14 歳)、生産年齢人口 (15~64 歳) が全体的に減少し、また老年人口 (65 歳~) は、75 歳以上人口の増加が予測されます。

〈将来人口の見通し (平成 27 年~令和 12 年)〉



出典：国勢調査 (H27)、将来人口・世帯予測ツール (R12)

## ②都市施設及び防災

都市計画道路は、J R 赤湯駅と赤湯温泉街を結ぶ(都)赤湯停車場線等の一部に未整備の区間がみられます。

都市公園等は、烏帽子山公園や白竜湖公園等の特徴的な公園が立地する一方で、中央部を除く地域南部及び北部において誘致圏域に公園が立地しない住宅地がみられます。

避難所は、赤湯公民館等の7か所に指定されています。

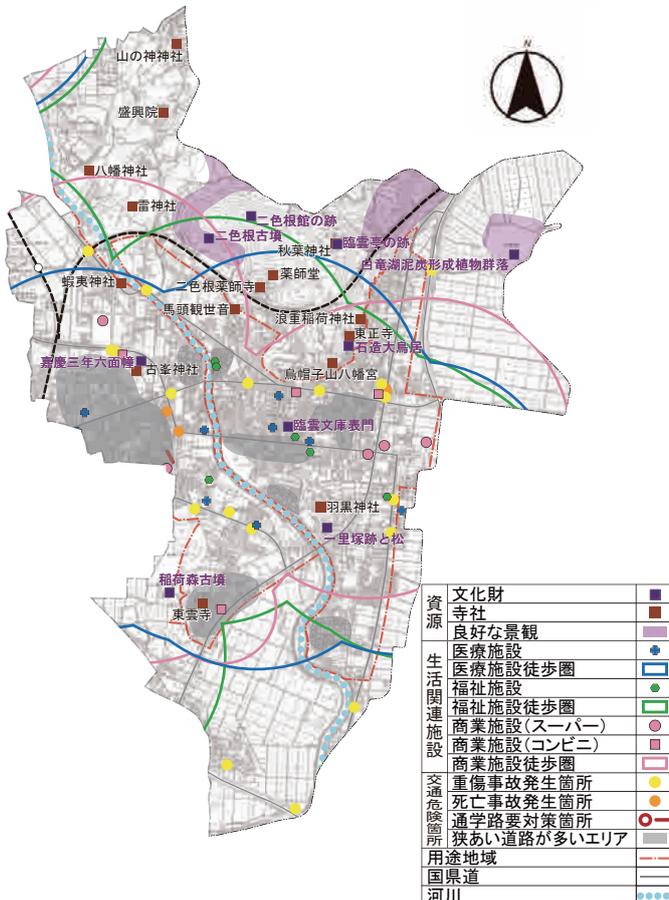
また、想定浸水深(想定最大規模降雨)は、赤湯温泉街や地域南部及び東部の田園を中心に0.5~3.0mの浸水が想定されています。

出典:南陽市洪水・土砂災害ハザードマップ(避難所、想定浸水深(想定最大規模降雨))  
山形県HP(土砂災害警戒区域)

〈都市施設及び防災状況図〉



〈資源、生活関連施設等状況図〉



## ③資源、生活関連施設、交通危険箇所

地域資源としては、稻荷森古墳等の歴史的資源や白竜湖泥炭形成植物群落等の自然的資源等の多様な文化財がみられるとともに、烏帽子山八幡宮をはじめとする多くの寺社が立地しています。

生活関連施設は、赤湯の市街地中心部に医療、福祉、商業施設が集中して立地し、市街地の利便性は高いものの、徒歩で生活関連施設にアクセスできない住宅地が一部みられます。

交通危険箇所は、(都)赤湯停車場線等で重傷事故が発生しています。

狭あい道路が多いエリアは、(都)赤湯停車場線周辺等の古くから住宅地を形成する場所に多くみられます。

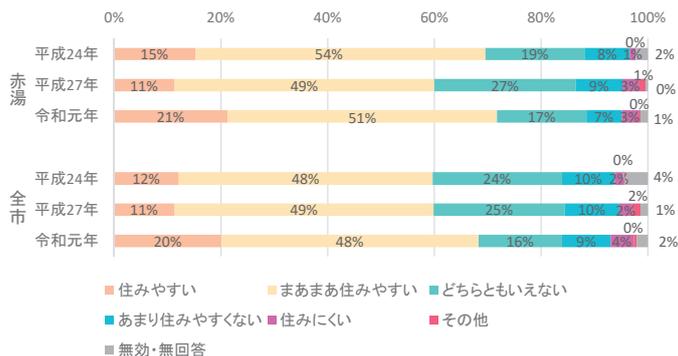
出典:市HP、住宅地図(資源)、山形県医療機関情報ネットワーク等(医療施設)、国土数値情報等(福祉施設)、山形県HP等(商業施設)、山形県HP、建設課(交通危険箇所)

#### ④市民意向

本地域の市民意向として、令和元年における赤湯地域の居住者の住みやすさへの回答をみると、「住みやすい」(21%)と「まあまあ住みやすい」(51%)の合計が約7割を占めています。

また、満足度が低く重要な項目として、「地域公共交通の確保」等が挙げられています。

〈南陽市の住みやすさ〉



〈まちづくりの満足度・重要度〉

赤湯地域		全市	
1	地域公共交通の確保 (満足度：-43.9、重要度：75.4)	1	雨・雪に強い地域づくり (満足度：-22.9、重要度：88.5)
2	安全・安心な住環境の整備 (満足度：-34.4、重要度：66.5)	2	地域公共交通の確保 (満足度：-36.5、重要度：76.6)
3	雨・雪に強い地域づくり (満足度：-29.3、重要度：89.5)	3	長期的な視点に立った財政運営 (満足度：-25.0、重要度：79.6)

出典：令和元年度南陽市民意向調査

## (2)地域の特性と課題

### ①本市の特色である温泉資源、歴史資源の立地

赤湯温泉街において温泉を活用した施設が多く分布しているとともに、烏帽子山八幡宮をはじめとする歴史資源が多く分布しています。

### ②充実した公共施設の立地

市役所や南陽市文化会館、市民体育館、南陽市立図書館等の市を代表する多様な大型公共施設が立地しています。

### ③市街地全体における生活関連施設の立地

医療、福祉、商業の生活関連施設が市街地全体に広く立地していることから、徒歩や自転車で日常生活サービスが利用しやすい環境にあります。

### ④交通の変化

東北中央自動車道の南陽高畠インターチェンジ～山形上山インターチェンジが開通し、南陽高畠インターチェンジは赤湯市街地に近接しています。

### ⑤少子高齢化の進行

人口は平成7年からの約20年間で約4,000人が減少し、赤湯地域においても少子高齢化が進行する見通しとなっています。

### ⑥空き家等の増加

本地域の空き家は増加傾向にあります。また、商店街においては空き店舗がみられ、地域住民の日常生活の利便性や観光交流の低迷が懸念されます。

### ⑦道路、公園等の都市基盤の不足

多くの都市計画道路において未整備区間がみられ、赤湯温泉街周辺等には狭あい道路が残存しています。また、公園の誘致圏外<sup>※</sup>の住宅地もみられます。

### ⑧自然災害のリスク

市街地に隣接する烏帽子山等の傾斜地の一部が、急傾斜地崩壊警戒区域に指定され、また、地域の大部分に想定浸水深が0.5mを超える区域がみられます。

※誘致圏外：誘致圏とは、公園を利用する人の対象範囲であり、誘致圏外とはその範囲の外のこと。

### (3)赤湯地域の将来像

#### 都市の中心として多くの人に住まい、楽しむまち

赤湯地域では、温泉等の特徴的な地域資源を生かし、市内外から多くの来訪者が集う本市の観光交流の拠点形成を目指します。また、本市の中心市街地として、主要な公共施設等の充実・強化を図るとともに、誰もが安心して日常生活を送ることができる生活環境の形成を進めます。

### (4)まちづくりの方向

#### ①都市活力を支える中心づくり

地域内に立地する様々な公共施設や都市機能の利活用・強化により、市外との交流及び地域内交流の活性化を図ります。

また、立地適正化計画制度の適用により、都市生活の中心となる生活サービス施設の誘導を図り、本市の中心機能を担う市街地を形成します。

#### ②観光拠点としての機能の強化

本市の観光の中心地として、烏帽子山八幡宮や赤湯温泉街等の地区一帯及び既存資源の魅力向上やそれらの連携・活用を進め、魅力的な観光地の形成を図ります。

また、東北中央自動車道の延伸整備を生かして、南陽高畠インターチェンジの利便性を生かしたまちづくりの検討を行います。

#### ③誰もが暮らしやすい環境づくり

生活関連施設が充実する環境を生かして、建物の更新を進めるとともに、市街地中心部の空き家の活用等により、居住を誘導します。また、市街地中心部に立地する空き店舗等については、地域交流機能等の誘導を促進します。

#### ④都市基盤の改善

未整備の都市計画道路や市街地内にみられる狭あい道路の解消に向けて、円滑で安全な道路整備に努めるとともに、身近な遊び場が不足する住宅地においては、ポケットパーク等の整備や子どもの遊び場の確保に努めます。

#### ⑤安全に暮らすことができる環境の確保

市街地の安全性の向上に向けて、河川堤防等の防災基盤整備の推進を図るとともに、土砂災害の危険に対する防災対策を進め、浸水の危険性がある地域については、危険性の周知と避難対策の徹底を図ります。

また、狭あい道路により密集する市街地では、地域の方々との協働により、点在する空地等を雪押し場として活用し、積雪時の道路の安全性を確保します。

## (5)まちづくりの方針

### ■土地利用の方針

---

#### 【商業地】

- 赤湯温泉街とその周辺一帯を商業地と位置づけ、商業機能や公共サービスの充実を図ります。
- 連続した歩行者空間の確保や分かりやすいサインの設置等により、来訪者が歩いて楽しむことができる環境の整備を図ります。
- 農産物やワイン等の加工品の市場、イベント等の開催に対応して、それを実施することができる環境を整備します。
- (都) 赤湯停車場線は景観デザインに配慮した整備を促進するとともに、沿道における地区計画や建築協定等の導入を図ります。
- JR赤湯駅及び赤湯温泉街周辺に駐車場を確保することにより、来訪者が利用しやすい環境の整備を図ります。

#### 【幹線沿道地】

- (都)高畠南陽線・(都)栄町漆山線・(都)梶塚郡山西線・(都)赤湯停車場線の沿道を幹線沿道地として位置づけ、沿道サービス施設の誘導を図ります。

#### 【一般住宅地】

- 商業・業務施設と併存する赤湯の商業地周辺等を一般住宅地として位置づけ、基盤施設の整備を推進し、居住機能と商業機能が併存する快適で利便性の高い住環境の形成を図ります。

#### 【専用住宅地】

- 専用住宅地は、道路幅員の改善や空き家等の活用、残存する農地等未利用地における宅地化等により、安全で快適な住環境の形成を図ります。

### ■都市施設の方針

---

- 公衆浴場の統廃合を図ります。
- (都) 赤湯停車場線の整備を促進します。
- 北町公園、諏訪公園等の適正な維持管理を行います。
- 公園長寿命化計画に基づき、中央花公園の維持管理・改修を行います。
- 烏帽子山公園の環境整備等を推進します。

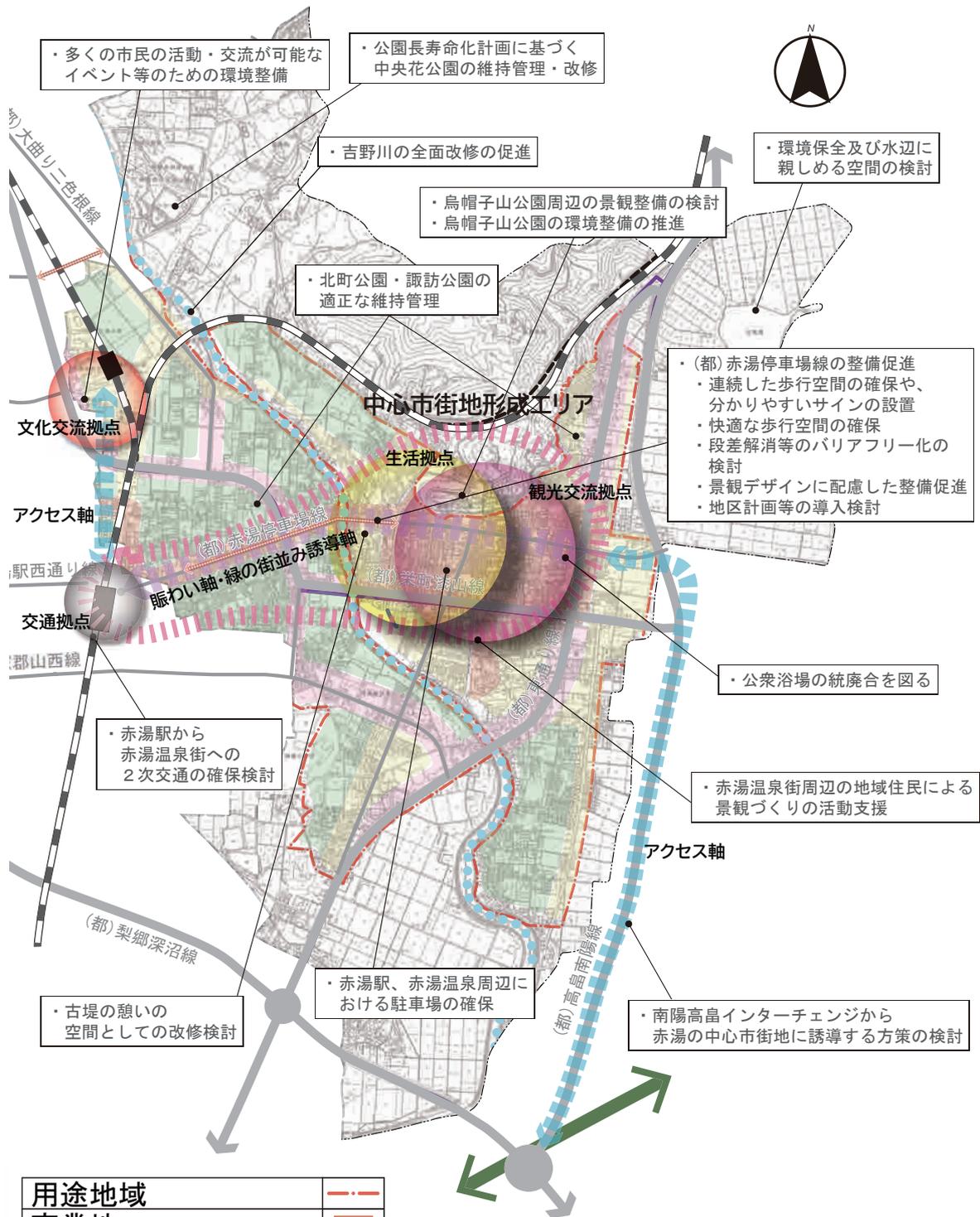
### ■市街地環境の方針

---

- 多くの市民の活動・交流が可能なイベント等のための環境整備を行います。
- 赤湯駅から赤湯温泉街への2次交通の確保を検討します。
- (都) 赤湯停車場線において、段差の解消や電線の地中化等のバリアフリー化を推進します。

- （都）赤湯停車場線の快適な歩行空間を確保します。
- 南陽高畠インターチェンジから赤湯の中心市街地に誘導する方策を検討します。
- 通学路要対策箇所の改善により、通学路の安全確保を図ります。
- 白竜湖については、環境を保全するとともに市民や来訪者が水辺に親しめる空間になるよう検討します。
- 地域に親しまれている古堤を憩いの空間として改修を検討します。
- 赤湯温泉街周辺の地域住民による景観づくりの活動を支援します。
- 烏帽子山公園周辺の景観整備を検討します。
- 吉野川の全面改修について、計画的な事業の促進を関係機関に継続して要望します。
- 急傾斜地の崩壊等の土砂災害の危険がある区域について対策を促進するとともに、土砂災害ハザードマップの周知により、災害時における地域住民の円滑な避難を誘導します。
- 地域住民が災害情報を取得しやすいよう、多様な提供手段を検討します。
- 避難所の適切な配置、規模や安全な避難経路を検討します。

〈赤湯地域の方針図〉



### 3 宮内・漆山地域

#### (1)地域の現状

##### ①人口動向

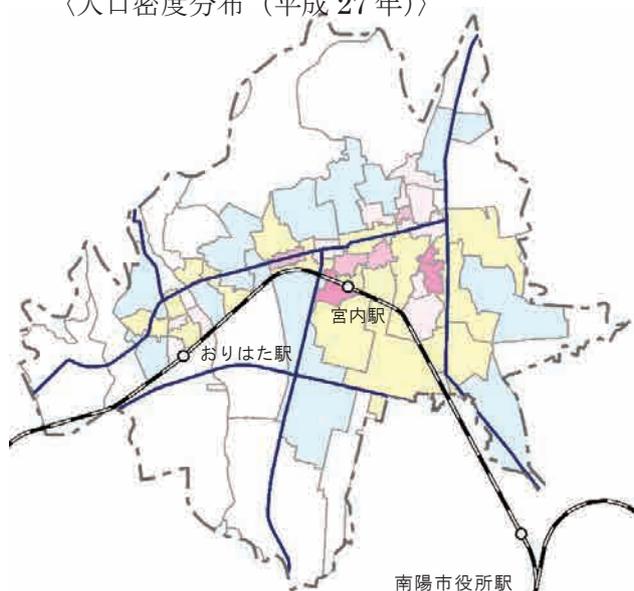
平成 27 年現在における本地域の人口は 9,655 人、世帯数は 3,197 世帯となっています。

15 歳未満の年少人口比率は 10.6%、65 歳以上の老年人口比率は 34.3%であり、他地域と比較すると年少人口比率は低く、老年人口比率が高い状況にあります。

平成 27 年現在の人口密度分布をみると、宮内駅や熊野大社周辺、公立置賜南陽病院北側等において人口密度が高く、地域縁辺部のエリアは低くなっています。

〈人口・世帯等（平成 27 年）〉

〈人口密度分布（平成 27 年）〉



人口	9,655 人
世帯数	3,197 世帯
平均世帯人員	3.0 人/世帯
年少人口比率	10.6%
老年人口比率	34.3%

##### 凡例

##### 平成 27 年人口密度



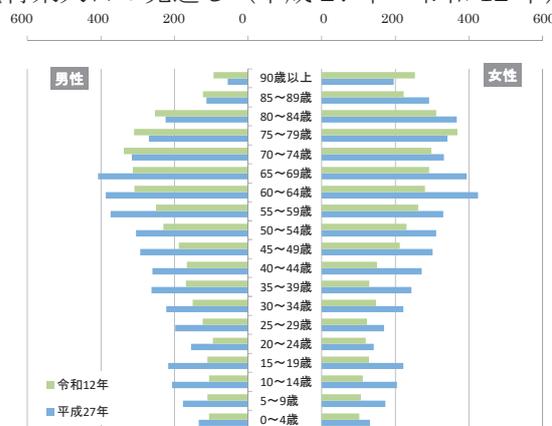
出典：国勢調査

(将来人口見通し)

平成 27 年（現況）及び令和 12 年（推計）の男女別 5 歳階級別人口ピラミッドをみると、高齢者が多く、子どもが少ないつぼ型の人口構造となっていますが、令和 12 年は 69 歳以下の人口が大きく減少することが予測されます。

年齢 3 区分別の人口見通しをみると、男女ともに年少人口（0~14 歳）、生産年齢人口（15~64 歳）が全体的に大きく減少すると予測されます。老年人口（65 歳~）は、女性は全体的に減少する傾向にありますが、男性は 70 歳以上で増加することが予測されます。

〈将来人口の見通し（平成 27 年~令和 12 年）〉



出典：国勢調査（H27）、将来人口・世帯予測ツール（R12）

〈都市施設及び防災状況図〉

②都市施設及び防災

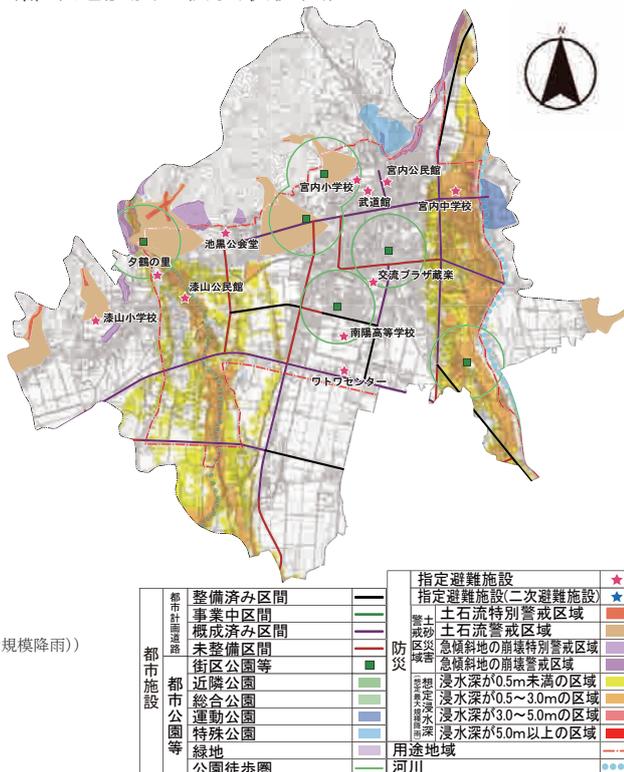
都市計画道路は、(都)富貴田線や(都)池黒向山線等の一部に未整備の区間がみられます。

都市公園等は、双松公園や向山公園等の大規模な公園が立地する一方で、市街地の広い範囲において誘致圏域に公園が立地しない住宅地がみられます。

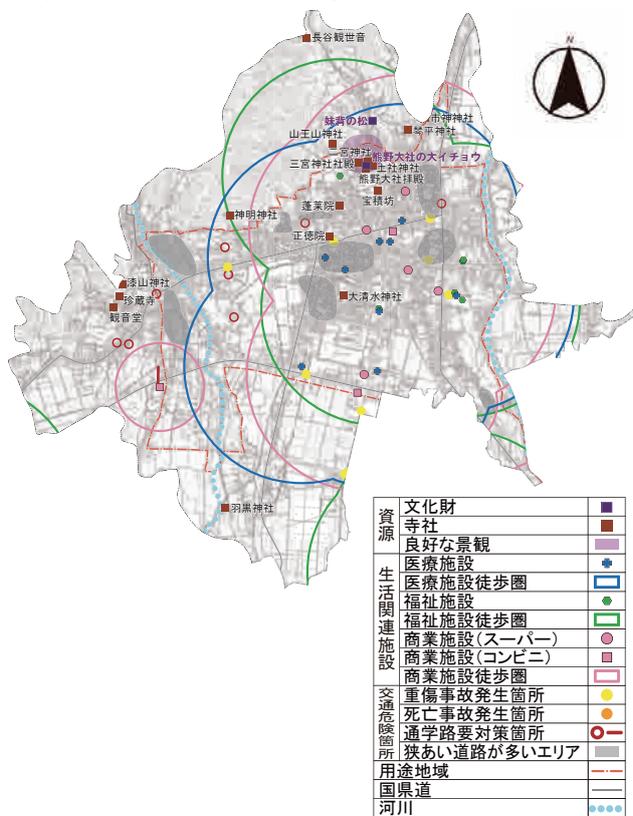
避難所は、交流プラザ蔵楽等の11か所に指定されています。

また、想定浸水深(想定最大規模降雨)は、織機川や吉野川沿いを中心に0.5~3.0mの浸水が想定されています。

出典:南陽市洪水・土砂災害ハザードマップ(避難所、想定浸水深(想定最大規模降雨))  
山形県HP(土砂災害警戒区域)



〈資源、生活関連施設等状況図〉



③資源、生活関連施設、交通危険箇所

地域資源としては、熊野大社の大イチョウや妹背の松等の歴史的資源や多くの寺社が立地しています。

生活利便施設は、宮内の市街地中心部に、医療、福祉、商業施設が集中して立地し、まちなかの利便性は高いものの、徒歩で生活関連施設にアクセスできない住宅地が一部みられます。

交通危険箇所については、主要地方道山形南陽線沿いで重傷事故が発生しています。

狭あい道路が多いエリアは、宮内駅周辺や古くから住宅地を形成する場所に多くみられます。

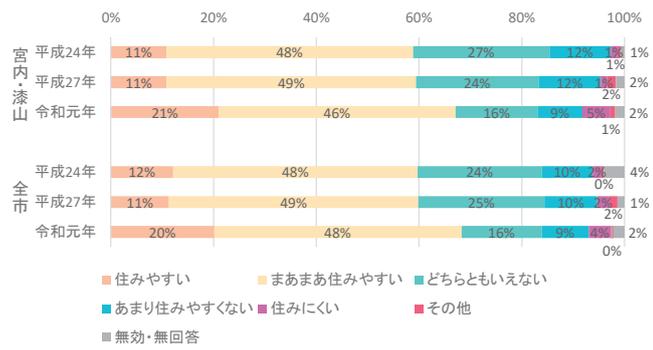
出典:市HP、住宅地図(資源)、山形県医療機関情報ネットワーク等(医療施設)、国土数値情報等(福祉施設)、山形県HP等(商業施設)、山形県HP、建設課(交通危険箇所)

#### ④市民意向

本地域の市民意向として、令和元年における宮内・漆山地域の居住者の住みやすさへの回答をみると、「住みやすい」(21%)と「まあまあ住みやすい」(46%)の合計が約7割を占めています。

また、満足度が低く重要な項目として、「安全・安心な住環境の整備」等が挙げられています。

〈南陽市の住みやすさ〉



〈まちづくりの満足度・重要度〉

宮内・漆山地域		全市	
1	安全・安心な住環境の整備 (満足度：-41.9、重要度：75.4)	1	雨・雪に強い地域づくり (満足度：-22.9、重要度：88.5)
2	地域公共交通の確保 (満足度：-31.3、重要度：78.7)	2	地域公共交通の確保 (満足度：-36.5、重要度：76.6)
3	長期的な視点に立った財政運営 (満足度：-26.1、重要度：78.9)	3	長期的な視点に立った財政運営 (満足度：-25.0、重要度：79.6)

出典：令和元年度南陽市民意向調査

## (2)地域の特性と課題

### ①豊富な歴史資源の立地

熊野大社や大イチョウ等の本市を代表する歴史資源が豊富にあります。

### ②生活関連施設の集積

医療、福祉、商業の生活関連施設が宮内の市街地中心部に集積し、公立置賜南陽病院が立地しています。一方、漆山は生活利便施設の立地が不足しています。

### ③市の雇用を支える産業拠点

地域南部に立地する西工業団地等においても雇用の創出を図り、都市活力を維持するとともに、本市の産業拠点としての機能を強化しています。

### ④人口減少と少子高齢化の進行

人口、世帯数ともに減少傾向にあり、特に、熊野大社周辺や漆山の一部等の既成市街地の老年人口比率が高くなっています。

### ⑤施設の老朽化及び空き家の増加

宮内公民館や双松公園等の公園施設の老朽化がみられるとともに、既成市街地には、老朽化した空き家が増加しています。

### ⑥既成市街地の道路、身近な公園の不足

多くの都市計画道路において未整備区間がみられ、熊野大社周辺や漆山の一部においては、狭あい道路が残存しています。また、漆山は身近な公園が不足しています。

### ⑦市街地に点在する交通危険箇所

宮内や漆山の既成市街地を中心に通学路要対策箇所が点在し、幹線道路には重傷事故発生箇所が点在しています。

### ⑧自然災害のリスク

市街地に隣接する地域北部の傾斜地の一部が土砂災害警戒区域等に指定され、河川沿いに想定浸水深が0.5mを超える区域がみられます。

### (3)宮内・漆山地域の将来像

#### 人と文化が集う交流のまち

宮内・漆山地域では、日本三熊野である熊野大社等の歴史資源を生かし、官民連携により賑わい魅力ある観光地づくりを目指します。また、身近な生活サービス施設の充実・強化により、持続可能な生活環境の形成を進めます。

### (4)まちづくりの方向

#### ①魅力ある観光地の形成

魅力ある観光地の形成に向けて、熊野大社等の歴史資源を生かし、施設の整備と各種資源の連携・活用を検討します。また、熊野大社周辺においては、魅力的な環境整備のほか、地域におけるおもてなし等のソフト面での取り組みを行い、リピート率の高い観光地づくりを図ります。

#### ②地域における賑わい創出

老朽化する公共施設の建て替えにより、様々な市民活動の拠点となる新たな賑わいの場を創出します。

#### ③都市機能の維持・充実

立地適正化計画制度の適用により、市街地への居住を誘導し、立地する生活関連施設を支える周辺人口を確保して日常生活の利便性の維持を図ります。

また、今後も西工業団地等の本市の雇用を支える工業地の維持・充実に努めます。

#### ④誰もが暮らしやすい環境づくり

生活関連施設が充実する環境を生かし、市街地中心部に立地する空き家や空地の活用促進等により、居住を誘導します。市街地中心部に立地する空き店舗等については、地域交流機能等の誘導を促進します。

#### ⑤安心して暮らせる環境づくり

土砂災害の危険に対する防災対策を進め、浸水の危険性がある地域については、危険性の周知と避難対策の徹底を図ります。

生活道路の狭あい部の解消や身近な公園の整備により、安全で快適な居住環境の形成を図るとともに、狭あい道路により密集する市街地では、地域の方々との協働により、点在する空地等を雪押し場として活用し、積雪時の道路の安全性を確保します。

## (5)まちづくりの方針

### ■土地利用の方針

---

#### 【商業地】

- 既存の宮内商店街と（都）富貴田線沿道を商業地と位置づけ、特に宮内商店街においては、医療・福祉・商業等の生活関連施設の充実と立地を誘導します。
- 熊野大社と連続した歩行者空間の確保や分かりやすいサインの設置等により来訪者が歩いて楽しめる環境の整備を図ります。
- 地域住民との協働により、宮内の門前町としての修景整備を支援します。

#### 【幹線沿道地】

- （都）栄町漆山線沿道を幹線沿道地として位置づけ、交通利便性を生かして商業サービスの維持・誘導を図ります。

#### 【一般住宅地】

- 錦町、桜田、おりはた駅周辺等の一般住宅地は、基盤施設の整備を推進し、居住と商業機能等が併存する快適で利便性の高い住環境の形成を図ります。

#### 【専用住宅地】

- 宮内や漆山等の専用住宅地は、生活道路の改善を図り安全で快適な基盤施設の整備を推進します。

#### 【工業地】

- 西工業団地、池黒地内、（都）大曲り尾島線沿道は、工業地として位置づけ、周辺の住環境に配慮しながら、工業地の形成を図る工場立地法の適切な運用等により良好な工業地環境の形成を図ります。

### ■都市施設の方針

---

- （都）宮内池黒線、（都）関口羽付線の整備を推進します。
- 公園長寿命化計画に基づき、向山公園の維持管理・改修を行います。
- 双松公園の環境整備等を推進します。
- 老朽化し建て替えを行う、宮内公民館の整備地選定及び整備手法の検討を進めます。
- 地域の防災対策の充実を図るため、防災施設等の整備を検討します。

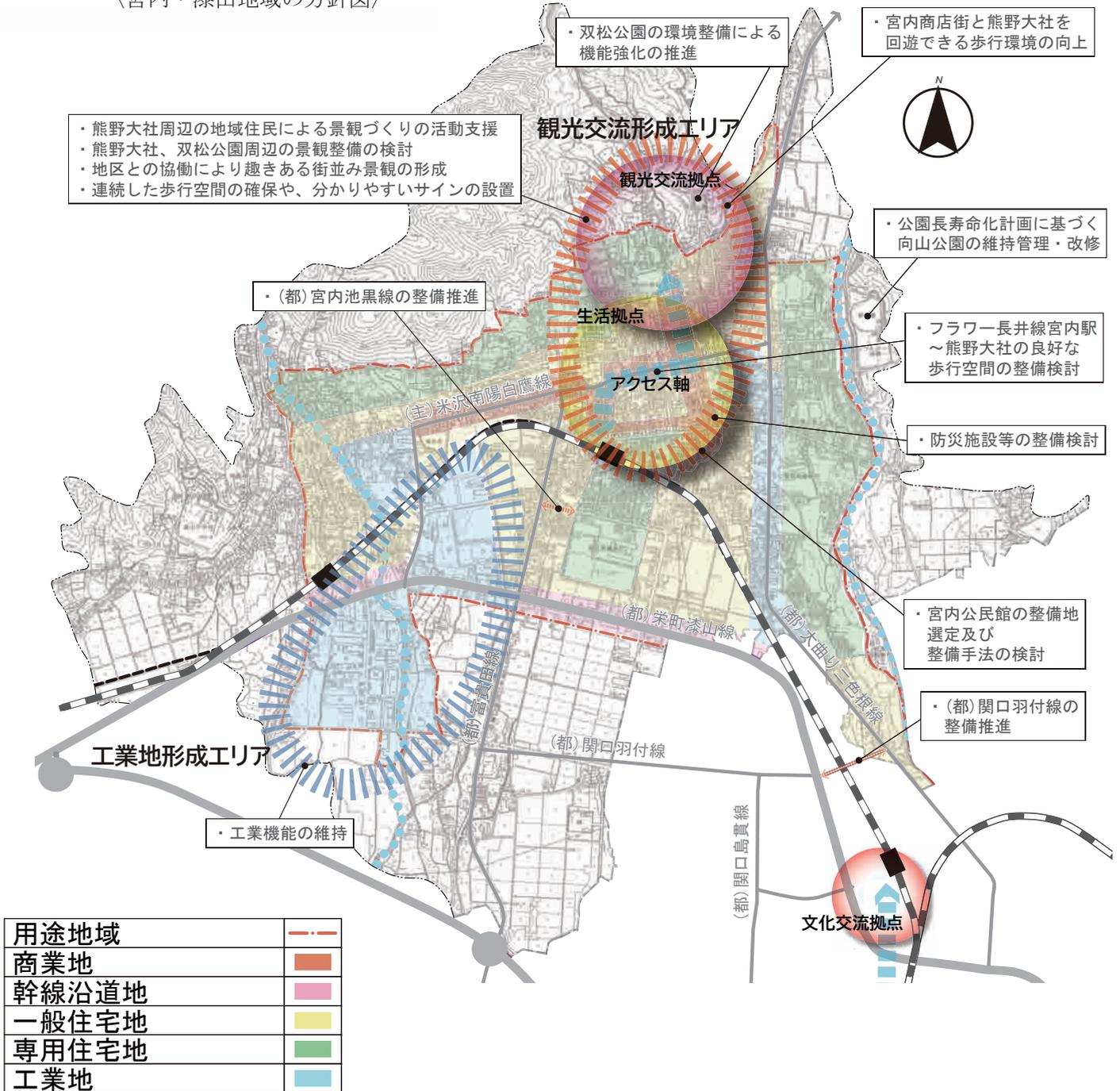
### ■市街地環境の方針

---

- 通学路要対策箇所の改善により、通学路の安全確保を図ります。
- フラワー長井線宮内駅から熊野大社への歩行空間の整備を検討します。
- 熊野大社周辺の地域住民による景観づくりの活動を支援します。
- 熊野大社、双松公園周辺の景観整備を検討します。
- 吉野川の全面改修について、計画的な事業の促進を関係機関に継続して要望する。
- 災害リスクの増大に備えた市街地の雨水排水対策を推進します。

- 急傾斜地の崩壊等の土砂災害の危険がある区域について対策を促進するとともに、土砂災害ハザードマップの周知により、災害時における地域住民の円滑な避難を誘導します。
- 避難所の適切な配置、規模や安全な避難経路を検討します。
- 地域住民が災害情報を取得しやすいよう多様な提供手段を検討します。

〈宮内・漆山地域の方針図〉



## 4 沖郷地域

### (1)地域の現状

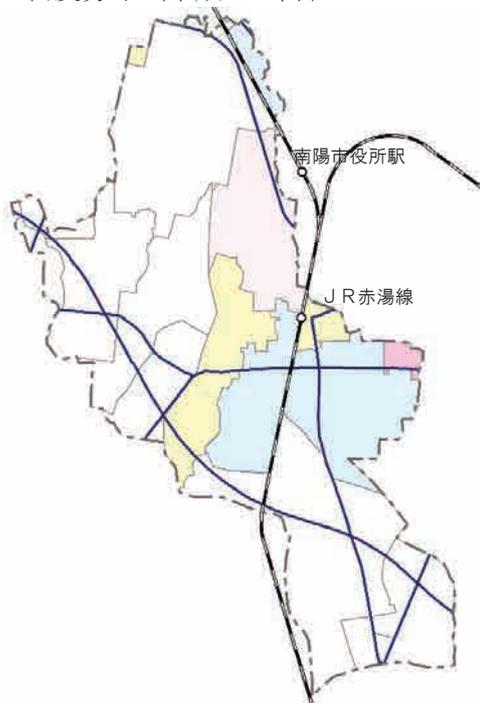
#### ①人口動向

平成 27 年現在における本地域の人口は 5,640 人、世帯数は 1,929 世帯となっています。

15 歳未満の年少人口比率は 15.3%、65 歳以上の老年人口比率は 23.2%であり、他地域と比較すると年少人口比率は高く、老年人口比率が低い状況にあります。

平成 27 年現在の人口密度分布をみると、郡山や若狭郷屋の一部において人口密度が高く、地域東部を除く縁辺部で人口密度が低くなっています。

〈人口密度分布（平成 27 年）〉



（将来人口見通し）

平成 27 年（現況）及び令和 12 年（推計）の男女別 5 歳階級別人口ピラミッドをみると、比較的子どもが少ないつぼ型の人口構造となっており、今後は高齢化の進行が予測されます。

年齢 3 区分別の人口見通しをみると、全体的に概ね横ばい傾向にありますが、生産年齢人口（15～64 歳）の特に女性における 30～34 歳での減少、45～49 歳の増加がみられます。老年人口（65 歳～）は全体的に増加することが予測されます。

〈人口・世帯等（平成 27 年）〉

人口	5,640 人
世帯数	1,929 世帯
平均世帯人員	2.9 人/世帯
年少人口比率	15.3%
老年人口比率	23.2%

#### 凡例

##### 平成 27 年人口密度



出典：国勢調査

〈将来人口の見通し（平成 27 年～令和 12 年）〉



出典：国勢調査（H27）、将来人口・世帯予測ツール（R12）

## ②都市施設及び防災

都市計画道路は、(都)赤湯駅西若狭郷屋線や(都)三間通り線等の一部に未整備の区間がみられます。

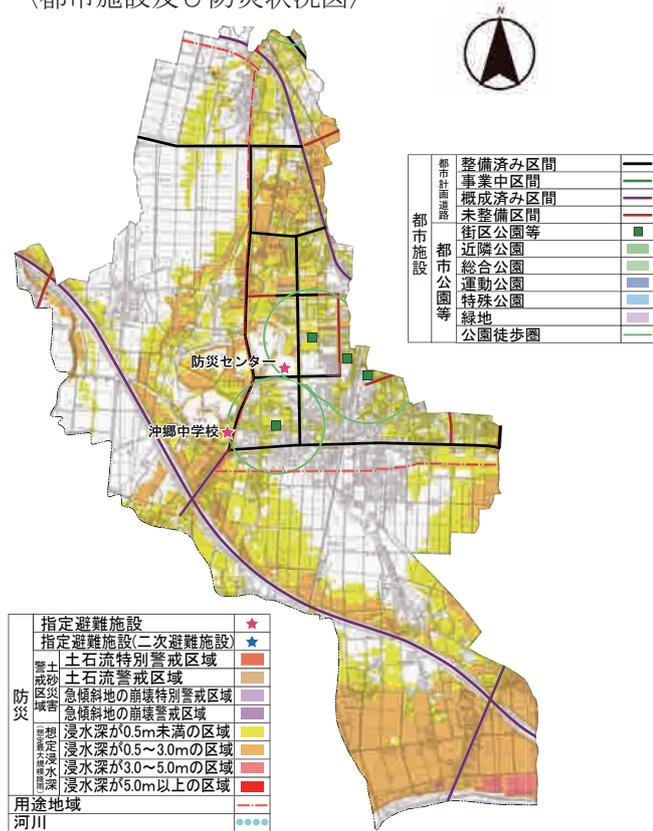
都市公園等は、面整備を行った赤湯駅西側において身近な公園が立地する一方で、市街地の広い範囲において誘致圏域に公園が立地しない住宅地がみられます。

避難所は、防災センター（沖郷公民館）及び沖郷中学校の2か所に指定されています。

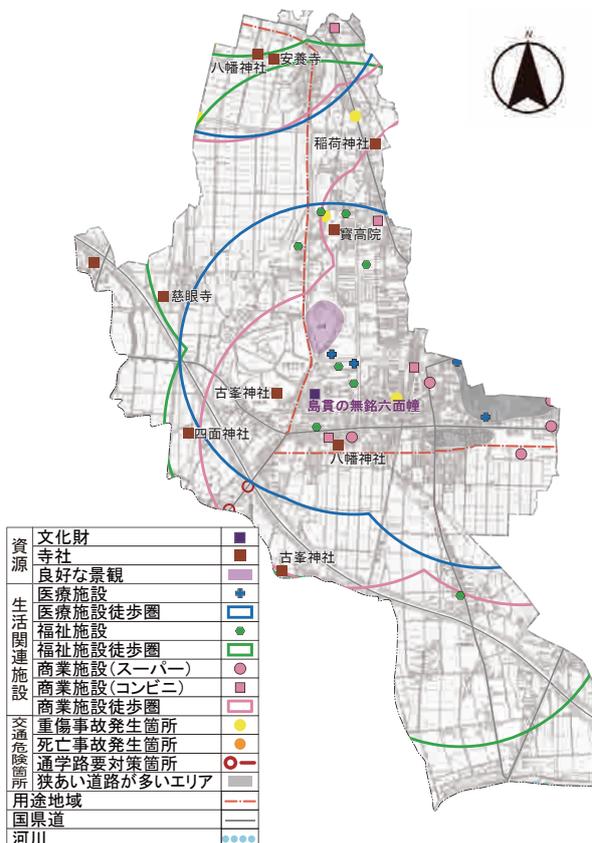
また、想定浸水深（想定最大規模降雨）は、地域南部の田園や若狭郷屋の農地等に0.5～3.0mの浸水が想定されています。

出典：南陽市洪水・土砂災害ハザードマップ（避難所、想定浸水深（想定最大規模降雨））、山形県HP（土砂災害警戒区域）

〈都市施設及び防災状況図〉



〈資源、生活関連施設等状況図〉



## ③資源、生活関連施設、交通危険箇所

地域資源としては、島貫の無銘六面幢の歴史的資源や良好な景観である丸堤、八幡宮等をはじめとする多くの寺社が立地しています。

生活利便施設は、広い範囲に医療、福祉、商業施設が立地していますが、地域南部には医療、商業施設の立地がなく、徒歩で生活関連施設にアクセスできない住宅地が一部みられます。

交通危険箇所は、JR赤湯駅西側等で重傷事故が発生しています。

狭あい道路が多いエリアは、郡山等古くから住宅地を形成する場所に多くみられます。

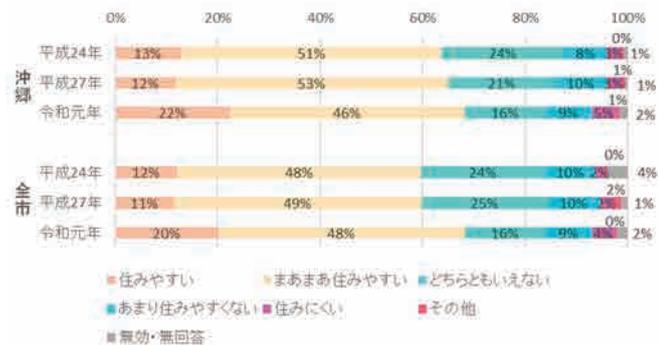
出典：市HP、住宅地図（資源）、山形県医療機関情報ネットワーク等（医療施設）、国土数値情報等（福祉施設）、山形県HP等（商業施設）、山形県HP、建設課（交通危険箇所）

#### ④市民意向

本地域の市民意向として、令和元年における沖郷地域の居住者の住みやすさへの回答をみると、「住みやすい」(22%)と「まあまあ住みやすい」(46%)の合計が約7割を占めています。

また、満足度が低く重要な項目として、「地域公共交通の確保」等が挙げられています。

〈南陽市の住みやすさ〉



〈まちづくりの満足度・重要度〉

宮内・漆山地域		全市	
1	地域公共交通の確保 (満足度：-38.9、重要度：74.7)	1	雨・雪に強い地域づくり (満足度：-22.9、重要度：88.5)
2	長期的な視点に立った財政運営 (満足度：-25.5、重要度：78.0)	2	地域公共交通の確保 (満足度：-36.5、重要度：76.6)
3	雨・雪に強い地域づくり (満足度：-22.4、重要度：87.1)	3	長期的な視点に立った財政運営 (満足度：-25.0、重要度：79.6)

出典：令和元年度南陽市民意向調査

## (2)地域の特性と課題

### ①安定した人口構造

新たな市街地整備により、本市で唯一人口及び世帯数が増加する地域であり、今後も年少人口、生産年齢人口が一定数確保され、比較的安定した人口構造となっています。

### ②交通の変化

本市の玄関口であるJR赤湯駅を有しているとともに、新たな交通手段となる「おきタク」の取り組みが開始されています。

### ③整った都市基盤

面的な市街地整備に伴い、幹線道路や生活道路が整備されており、他地域に比べ身近な公園が充実しています。

### ④充実した水と緑の空間

市街地に近接して丸堤等の水辺環境を有し、また、市街地周辺に田園や果樹園といった緑が分布しています。

### ⑤平坦な地形が広がる地域特性

平坦な地形が広がっているため、土砂災害等の発災の恐れが低い状況にあります。

### ⑥施設間における歩行空間の確保

赤湯駅から南陽市文化会館までの路線については、快適な歩行空間が確保されていない状況にあります。

### ⑦交通危険箇所の指定

幹線道路を中心に通学路要対策箇所が点在しています。

### ⑧赤湯駅西側の商業機能の不足

良好な居住環境を形成する赤湯駅西側において、日常的な買い物等の商業機能が不足している状況にあります。

### (3) 沖郷地域の将来像

#### みどりと調和した快適に暮らせるまち

沖郷地域では、赤湯地域との連続する J R 赤湯駅周辺の中心市街地としての形成とともに、整った生活基盤、市街地を取り巻く豊かな自然環境等を生かし、良好な住環境の保全・形成を図ります。

### (4) まちづくりの方向

#### ① 良好な居住環境の保全と宅地利用の促進

整った都市基盤や新たな取り組みによる充実した公共交通等の良好な居住環境を生かし、立地適正化計画等の活用により、点在する住宅地内の未利用の空き宅地等への居住を促進するとともに、日常生活に関連した商業施設の立地誘導や必要な用途地域の見直し等を検討します。

また、各種定住支援制度を活用し、減少が予測される若者世代の転入を促進し、良好で持続可能なコミュニティの形成を図ります。

#### ② 交通環境の充実・活用

市内外の多くの人々が利用する J R 赤湯駅を起点とした、自転車及び歩行者の快適な移動環境の整備検討を行います。

また、新たな公共交通サービスの継続的な提供により、交通利便性の高い居住環境の維持を図ります。

#### ③ 水と緑の空間の保全・活用

丸堤や田園、農地等の恵まれた水と緑の環境を引き続き保全し、市街地の緑豊かな街並みづくりを推進します。

#### ④ 市街地の安全性の向上

通学路要対策箇所の解消や交通安全施設の整備等、市街地における歩行環境の安全性の確保を図ります。

また、浸水の危険性がある地域については、危険性の周知と避難対策の徹底を図ります。

## (5)まちづくりの方針

### ■土地利用の方針

---

#### 【商業地】

- 良好な基盤施設の状況、施設の立地見直し等を勘案して、商業施設の立地ができる用途地域等の検討を行います。
- J R 赤湯駅東側を商業地と位置づけ、本市の玄関口として魅力的な商業空間の形成を図ります。

#### 【幹線沿道地】

- (都)栄町漆山線・(都)栲塚郡山西線の沿道を幹線沿道地として位置づけ、交通の利便性を活かし、沿道サービス施設の誘導を図ります。

#### 【一般住宅地】

- 基盤施設が整備された(都)栲塚郡山西線沿道の一般住宅地は、良好な住環境の維持・形成を図ります。
- (都)関口羽付線周辺の一般住宅地は、残存する農地等未利用地の宅地化への計画的な誘導等を図ります。

#### 【専用住宅地】

- 駅西、若狭郷屋等の専用住宅地は、既存の良好な住環境の維持を図るとともに、未利用地の宅地化を促進して、良好な住宅地の形成を図ります。

### ■都市施設の方針

---

- (都)赤湯停車場線の整備を促進します。
- (都)関口羽付線、(都)赤湯駅西若狭郷屋線の整備を推進します。
- 公園長寿命化計画に基づき、さわだ公園、赤湯駅西緑地等の維持管理・改修を行います。

### ■市街地環境の方針

---

- 本市の玄関口として、J R 赤湯駅東側周辺の魅力的な施設・空間の整備を検討します。
- 利便性の高い商業地の形成に向けた公共施設、商業サービス機能の整備を検討します。
- 赤湯駅から赤湯温泉街への2次交通の確保を検討します。
- 新たな公共交通システムである「おきタク」の継続した運行支援を行います。
- 通学路要対策箇所の改善により、通学路の安全確保を図ります。
- J R 赤湯駅から南陽市文化会館への歩行空間の整備を検討します。
- 丸堤周辺について、市民協働により親水空間の保全を図ります。
- 避難所の適切な配置、規模や安全な避難経路を検討します。
- 地域住民が災害情報を取得しやすいよう多様な提供手段を検討します。

〈沖郷地域の方針図〉

